

調査研究協力校の実践

2 同僚性を築く校内研修 - 教員の学び合う体制づくり -



授業研究会は、授業を共同の考察の対象として、参加者それぞれの発見や考察を交流して学びあう機会である。自分とはことなった見方や意見、さらに参加者から出される代案を知り、自分の考えや案とつきあわせ、その相互触発をとおして自分を変えていくプロセスである。そこには、人や文化と出会い、自分の視野をひろげ深めていく楽しさがある。 2

事例6 教員の学びを進めるOJT

【小学校】学年ブロックごとの話し合いを通して、それぞれ興味や関心のある事柄をテーマに設定し、研究に取り組みました。計画の企画・立案、外部講師の選定から交渉、派遣申請の起案や送付など、手続きもすべてブロックの担当者の手で行いました。管理職のねらいは、仕事を通じた職場での教育訓練であるOJTです。教員一人一人にとっては、ボトムアップ型の校内研修となっています。

企業では、「仕事を通じた職場での教育訓練」をOJT (on-the-job training)と呼んでいますが、この学校では、それをもう一歩進めた「仕事を通じた学び」まで高めている校内研修に取り組んでいます。

時期	研究の流れ
5月上旬	研究テーマの設定、計画の企画・立案
5月中旬	講師選定、依頼手続き
6月上旬	第1回研究会（講師による授業と講話）
6月下旬	研究授業の指導案検討
6月下旬	第2回研究会（研究授業・授業研究）
11月上旬	研究授業の指導案検討
11月中旬	第3回研究会（研究授業・授業研究）
11月下旬	研究のまとめ

ブロックごとの研究テーマの設定

中学年ブロックのテーマは理科の指導法についてだよ。

低学年の子を一人で本を読めるように育てたいわ。子どもたちの読書活動を活性化させるにはどうしたらいいかしら。



私も聞いたことがあるけど知らないな。みんなで勉強しましょう。

「読書へのアニメーション」という方法があるって聞いたけど...

OJTとは、実際の仕事を通じて、必要な技術、能力、知識、あるいは態度や価値観などを身に付けさせる教育訓練のことです。この小学校では、個人の可能性や潜在能力を引き出すために、教師自身に考えさせる研修をすすめています。管理職は、個々の教師が自らの研修を企画する力、その研修を運営する力、講師等と交渉する力、ブロック内の教師と調整する力を身に付けさせたいと考え、校内研修を進めています。教師にとっては、自分たちの興味・関心に応じて、研修の内容、メニューなどを企画・運営できるので、ブロック内の教師が無理のない研修を心がけることができ、好評を得ています。

この研修を行うにあたっては、子どもたちの実態を把握して、その実態に基づき、必要な研修の候補を挙げ、一年間（場合によっては、複数年）進めていく研修を選択していきます。自らの興味・関心のある研修、子どもたちの学びに生かせる研修でなければ、長続きはしないという信念からです。自らの興味・関心に基づいた研修を企画し、構築していくこの研修は、ボトムアップ型の研修ともいえます。これにより、教師一人一人の研修への参加意欲が高まっています。

ここでは、低学年ブロックが、総合教育センターの指導主事を講師に、「読書指導」に関する研修を企画・運営していった実践を紹介します。

低学年ブロックの研究テーマ
「夢をはぐくむ読書活動～『読書へのアニメーション』の実践を通して」

研究計画の企画・立案

総合教育センターの指導主事が、学校図書館部会で講師を務めたそうだよ。

研究会に3回とも来ていただいて、指導助言していただけたといいわね。

実際に子どもたちを相手に実践していただけるかどうか、依頼してみましようか。

OKだったら派遣申請を出しますね。書くのは初めてだけど、これも勉強ですね。

講師派遣依頼、派遣申請の手続き

・講師依頼、派遣申請等も学年ブロックの担当者が行いました。

第1回の研究会では、講師が1年生を対象に「読書へのアニメーション¹⁾」の手法を生かした授業を展開しました。担当ブロックの教師は、授業を参観し、その実際を学びました。その後、全校の教員が参加して、講話を聞きました。

第1回研究会

講師(総合教育センターの指導主事)と学級担任との連携による授業実践



なるほど、言葉や絵のカードを使うやり方もあるのね。

授業の後、教室の本棚から本を取り出して読んでいる子がたくさんいてびっくりしたわ。

こんなに子どもたちがワクワクと楽しそうに学習するなんてびっくり。しかもすごい集中力。「読書へのアニメーション」って素晴らしい手法ね。私もやってみたいわ。

総合教育センターの指導主事による講話と実演

参観者は、講師の分かりやすい話の実演が加わることで、より具体的に理論と手法について理解することができました。低学年ブロックの研修会でしたが、講話には全ての教員が出席しました。同様に、他のブロックで講師を招いて講話を企画した際も、全ての教員が出席して研修を深めています。

1)読書へのアニメーション：スペインのモンセラ・サルトが考案した読書指導のメソッド。

第1回目の研究会で学んだことをもとに、担当ブロックの教員は、関連する書籍を購入し、各自がそれぞれに学習していきました。

第2回の研究会は、「読書へのアニマシオン」の手法を生かして実際に研究授業を行いました。

第2回研究会

研究授業 1年国語「いろいろなくちばし」

- ・ 学級担任による授業実践



場面の写真と言葉のカードを組み合わせる方法を取り入れたら、子どもたちはよく考えよく話し合っていたわ。

何が書いてあるかを読み取るだけでなく、どう書いてあるかを考えさせるのにふさわしい方法ね。

授業研究（低学年ブロック研究会）

研究授業後、学年ブロック3名の教師と、総合教育センターの指導主事で授業研究を行いました。

第3回の研究会では、第2回同様、研究授業を行いました。全職員が授業を参観し、児童の反応、表情、つぶやきなど児童の反応に対する授業者の対応を中心に見取っていき、気付いた事柄を付箋紙に記録していきました。

第3回研究会

研究授業 2年国語「お話、大すき」

- ・ 学級担任による授業実践

こっちが先だよ。

そうだよ、
そうだよ。



そうかな？
僕は反対だと思ふよ。

お話の順番を考えて読ませるのにふさわしい方法だと実感したわ。



付箋紙は、児童の活動中のつぶやきや話し合いの様子など、気付いたことを中心に記録していきました。

授業研究「対話リフレクションによる授業研究」

研究授業後に、授業者と参観者全員による授業研究会を開きました。児童の反応に視点を当てて、参観者が参考になった点や疑問点などについて、研究授業の際に付箋紙に書いておいたものを、黒板に貼り出しました。授業研究では、付箋紙に書かれた内容について、授業者と参観者との対話を通して振り返りました。

実は、同じ作者、同じ挿絵画家の絵本が二種類あるんですが、授業で使った方は、その場面の絵が文章の内容を表していなかったんです。

別の絵本を使った方がよかったですね。



さんは、どうしてこの場面で首をかしげたんでしょうね。

授業の振り返りができ、今後の授業に生かせる話し合いができたわね。



フランクに話し合えて、授業者も参観者も学び合いのあるやり方ね。子ども一人一人の思いや考えを見取ることの大切さや、教材研究の在り方を学びました。

この実践から学ぶこと！

- ブロックごとに教師が自ら研究テーマを設定し、研究の企画・立案、講師の選定、交渉、委嘱等をすべて自ら行うという主体的な取り組みであること。
- 他のブロックの研修に、興味や必要に応じて自由に参加できる、開いた研修であること。
- 職員室に「読書へのアニメーションコーナー」を作るなど、研究・研修の成果が授業改善の方策に具体的に結びついていること。

この学校の特徴は、教師が必要とする知識や技術を実際の授業を通して学んでいくOJT的な取組をしていることです。学年ブロック教師の興味・関心のある研究テーマを設定できるので、教員の研究に対する参画意識（モチベーション）が高く、積極的に取り組んでいます。また、教員はこの取組を通して、自らの研修を企画する力、その研修を運営する力、講師と交渉する力、学年ブロック内の先生方と調整する力を身に付けています。



事例 7

模擬授業を取り入れた授業研究会

【小学校】ブロック別（低学年、中学年、高学年のブロック）による授業研究会、学校全体で行う授業研究会、それぞれの特長を生かした校内研修を実施しています。特にブロック別の授業研究会では、意見を述べた教員が教師役、他の教員は児童役となり、即興で模擬授業を行います。そのため、単なる意見交換ではない、具体的な気付きのある話し合いになり、教員のよい学びの場となっています。

この事例では、校内研修として、年度内に全教員が学校の研究主題に基づいた授業を公開し、授業研究会を行っています。研修は、外部講師を招いて学校全体で行う研修と、ブロック別に行う研修とがあり、それぞれの特長を生かした研修を通して、教員が互いに学び合い、授業力の向上に努めています。

ブロック別に行う研修

1 授業者の決定

- ・（学校全体で行う研修での授業者は除く）全教員が必ず公開授業を行う。
- ・各授業者の授業公開の時期を、年間計画に位置付けておく。

ここがポイント

2 学習指導案の作成

- ・授業者が作成する。

ここがポイント

3 研究授業

- ・研究主題に基づいた、工夫ある授業を行う。
- ・当該ブロックの教員のみが参観する。

4 授業研究会

- ・ブロックごとに行う。
- ・意見を述べた教員は、その場で模擬授業を行う。

ここがポイント



ここでは、大切なポイントが三つあります。

一つ目は、「実践が授業力を向上させる」という考えから、必ず全教員が1回は授業を公開し、授業研究会を行うということです。ブロック別研修では、年齢が近い児童を教えている同僚の意見から、多くの示唆を得ることができます。

いろいろな先生方の授業を参観できるから、勉強になるわ！



二つ目は、学習指導案の作成を授業者に任せるということです。全教員が公開授業を行うため、ブロック内で学習指導案を作成しようとする、

各教員の負担感が増し、授業を公開することに消極的になりかねません。そこで、授業者が作成する学習指導案は略案でもよいこととし、授業の実践と授業研究会での振り返りを大切にしています。



ブロック別では、自分の公開授業のときだけ学習指導案の作成をすればいいから、負担は少ないわ！

三つ目は、授業の改善点について意見を述べた教員が、その場で模擬授業を行うということです。ブロック別研修では、授業研究会の参加者が少人数であるため、意見を述べやすい雰囲気になり、率直な話し合いができます。さらに、「意見を述べたら即実践」という考えから、意見を述べた教員が教師役、その他の教員が児童役となり、模擬授業を行います。こうして、模擬授業がまた材料となり、議論が深まって効果的な授業研究会になります。このようにすることで、教員間の人間関係も醸成され、よい雰囲気での授業研究を行うことができます。



模擬授業の様子

模擬授業はとても役立つわ。改善案だと思って意見を述べても、実際にやってみるとうまくいかないときもあるしね。意見を言うだけでは分からない、いろいろな気付きがあるわね。



学校全体で行う研修

- 1 授業者の決定
 - ・低・中・高学年のブロックごとに持ち回りで授業者を選出し、年3回行う。
- 2 学習指導案の作成
 - 担当学年で検討会を開き、原案を作成する。
 - 外部講師及び全教員による全体会を開き、担当学年が作成した原案を検討する。
 - 全体会で検討された原案を、担当学年で再検討する。
- 3 研究授業
 - ・研究主題に基づいた、工夫ある授業を行う。
- 4 授業研究会
 - ・全体会での振り返り。
 - ・外部講師からの指導・助言。

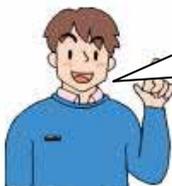
ここがポイント

ここがポイント



ここでは、大切なポイントが二つあります。

一つ目は、年間を通して同一の外部講師を招聘していることです。そうすることで、講師に学校の研究主題をよく理解してもらい、研修会のねらいに沿った指導をしてもらうようにします。年3回行う学校全体での研修時はもちろん、その他の時期にも必要に応じて連絡を取り、適宜、指導を受けることによって授業力の向上を図っています。



外部講師の指導は、的を射ていて分かりやすいから、すぐに授業に生かせるなあ！

これも、年間を通して指導をお願いしているから、学校の状況をよく理解してくれているからだと思うよ。

二つ目は、学習指導案の検討を全教員で行うことです。これは、他の学校でも行われていることですが、全教員が指導案作成に関わることで、授業の内容をよく理解することができ、授業を参観する際の視点が定まります。そうすることで、授業研究会での話し合いを、より深まりのあるものにすることができます。ただし、学習指導案の作成が目的ではないので、参加する教員の加重負担にならないように配慮しています。

また、この学校では外部講師にも学習指導案の検討会に参加してもらうことで、校内研修をPDCAのサイクルで行い、効果をあげています。

学習指導案をみんなで作り上げるので、事前に授業の内容が分かり、自分なりの視点をもって授業を参観できるわね！



外部講師に学習指導案の検討から参加してもらえるから、PDCAが機能して、授業力の向上に役立つわね！

この事例から学ぶこと！

- 学校全体で行う研修と学年ブロック毎に行う研修、それぞれの研修の特長を生かし、二つの研修を効果的に活用して授業力の向上を図っていること。
- ブロック別の授業研究会では、模擬授業を取り入れ、互いに学び合っていること。
- 年間を通して、外部講師との関わりをもち、学校課題解決に向けて研究を深めていること。

授業研究会での模擬授業は、授業者が授業の中で迷いが出た時などの助言を得る際に、参加者が互いにアイデアを出し合い、シミュレーションを通して確認ができる点が大変有効な手法ですね。

外部講師との関わりも、指導案づくりや研修会の進め方等のアドバイスが得られる点がいいですね。また、同一の講師による関わりによって、学校の状況を理解したうえでの適切な指導や助言を受けることができます。



事例 8 授業評価とビデオを活用した授業研究会の工夫

【中学校】生徒による授業評価で授業を振り返り、ビデオに記録した授業を見ながらの授業研究は、自らの実践を振り返るだけでなく、教師中心の考え方を問い直すよい機会となっています。映像を通しての発見が、自分を変え、授業を改善していく手がかりとなっています。

この中学校のA教諭は、教科における今年度の重点課題を、「一人一人の生徒が分かった、楽しいと思える授業の創造」と設定し、日々教材研究に励み、教具の開発、教材提示の工夫を研究してきました。

1 生徒による授業評価の実践

研究課題へのアプローチの妥当性を検証するため、6月と10月に研究授業を行いました。また、研究授業の終了後に、生徒による授業評価を実施しました。

6月の授業評価の結果からは、重点課題として取り組んでいる「一人一人の生徒が分かった、楽しいと思える授業の創造」に直接関係の深い項目6が他の評価項目と比べても満足度が低いことが分かりました。そこで、授業評価の後、より一層の分かる授業を目差し、ワークシートの工夫やコンピュータを利用した教材提示の工夫に力を注ぎました。

授業アンケート		このアンケートは、よりよい授業を行うために、みなさんの意見や感想を聞くものです。成績とは関係ありませんので、素直な意見を聞かせてください。			
年 組	番 名前	教科名			
あてはまるところに、 を付けてください。		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
1	先生の板書の仕方は分かりやすい。	20	28	9	0
2	先生の話し方や説明の仕方は分かりやすい。	28	25	4	0
3	先生は、授業のねらいをはっきりと示している。	34	14	8	1
4	先生は、様々な教材や機器を活用して授業を進めている。	35	13	8	1
5	先生が準備した資料や学習材は理解や技術の習得に役立つ。	18	22	13	4
6	先生の授業ではやる気が出てくる。	17	20	15	5
7	先生は、ほめて自信をもたせてくれる。	20	24	13	0
8	先生は名前と呼んでくれる。	22	17	17	1
9	先生は一人一人によく声をかけてくれる。	21	19	16	1
10	先生は、失敗や間違いをしても温かく見守ってくれる。	25	30	2	0
11	先生は、分かるまでいねいに教えてくれる。	24	27	6	0
12	先生は授業のはじめと終わりの時間を守ってくれる。	20	25	11	1
13	先生の授業の進め方は、ちょうどよい。	33	21	3	0
14	先生の授業は、質問や発言をしやすい雰囲気である。	23	26	7	1
15	先生は忘れ物や私語などきちんと注意している。	25	17	14	1

6月後半からの3か月、A教諭は自分なりの手応えを感じつつ、10月の研究授業を迎えました。10月の研究授業では、授業実践をビデオに記録し、その後の授業研究会に活用しました。合わせて、二度目の授業評価を授業後に実施しました。

項目 番号	あてはま る		どちらか といえばあ てはまる		どちらか といえばあ てはまらない		あてはまら ない	
	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月
5	18	30	22	17	13	9	4	1
6	17	19	20	22	15	14	5	2
7	20	18	24	21	13	16	0	2
8	22	20	17	16	17	19	1	2
9	21	21	19	17	16	18	1	1

5の項目は、生徒からのよい評価が増えたが、6の項目については、思ったほど生徒からのよい評価は得られませんでした。

7, 8, 9の各項目とも、数人の生徒が低い評価になってしまいました。

調査結果から 授業評価の結果からは、重点的に取り組んできた項目5の「先生が準備した資料や学習材は理解や技術の習得に役立つ」は前回と比べ、生徒からのよい評価が増えました。しかし、項目6の「先生の授業ではやる気が出てくる」については、思ったほどのよい評価は得られませんでした。一方、項目7の「先生は、ほめて自信をもたせてくれる」、項目8の「先生は名前を読んでくれる」、項目9の「先生は一人一人によく声をかけてくれる」の各項目は、前回の評価時と比べ、評価が低くなっていました。

A教諭は、分かる授業の創造を目指し、分かる授業を展開すれば生徒は楽しい授業であると感じてくれると思い、ワークシートの工夫や教材提示の工夫等に力を注いできました。しかし、生徒にとっては、必ずしも「楽しいと思える授業」になっていませんでした。振り返ってみても、A教諭にはその理由が分かりませんでした。



一人一人の生徒が分かった、楽しいと思える授業の創造を目指して、教具やワークシートの工夫をしたり、コンピュータを利用して教材提示の工夫をしたりしてきたのに、生徒はどうしてやる気が出る授業と認めてくれないんだろう？

2 ビデオを活用した授業研究会

その後、授業中の気になる場面を中心に、授業ビデオを見直しながらの授業研究が進められました。ビデオで授業を見合いながら、なぜ、「先生は、名前を呼んでくれる」、「先生は一人一人によく声をかけてくれる」等の評価項目が低いのかを参観者を交えて考えていきました。すると、A教諭は、発問に対して、答えた生徒の回答と異なる答えを引き出すために、回答後すぐに、「他に違う答えはありませんか。」という発言を繰り返していることに気がきました。



さらに、机間指導中にDさんのえんぴつが動いていないのに気付いたA教諭が、Dさんに話しかけたシーンが映っていました。

A教諭：「どうしたのかな？よく分からないところがあるの？」
Dさん：「...。」
A教諭：「先生が準備した資料を参考にするといいよ。がんばってみて。」
Dさん：「...。」 Dさんには、笑顔はありませんでした。



次いで、ワークシートに何度も書いては消すという作業を繰り返していたEさんの机の横にしゃがみ込んで、生徒に言葉をかけているA教諭が映し出されました。



A教諭：「Eさん、・・・はどうか？」と投げかけた言葉に、驚いた仕草を示しながらも、Eさんは微笑み、こう答えました。
Eさん：「私は と思うんですが、自信がないんです。」

これを見ていた参観者の一人が、「どうして、A先生が発した言葉かけにDさんは、何も応えず、Eさんは微笑んだのでしょうか？」とA教諭に尋ねました。A教諭は、Eさんには名前を呼びながら言葉かけをしているのに、Dさんには、名前を呼ばずに声かけをしていることが、このような違いを生んだのではないかと考えました。そして、「先生は名前で呼んでくれる。」という評価項目が低かった理由がこのようにことにあるのではないかとということにも気付きました。

項目7の「先生は、ほめて自信をもたせてくれる」、項目8の「先生は名前を読んでくれる」、項目9の「先生は一人一人によく声をかけてくれる」の各項目の評価が低くなった理由について、生徒との関わり方に問題があったのではないかと、A教諭は映像を通して振り返ることができました。そして、「先生の授業はやる気が出てくる」の評価項目が、思ったほどよい評価が得られなかった理由もここにあるのではないかと、改めて気付くことができました。

A教諭は、次時から授業中できるだけ生徒一人一人に声をかけることと、生徒の発言を大切に扱うことを心がけました。

この事例から学ぶこと！

- 重点課題の達成度を検証するために、授業評価を2回実施し、その結果を改善に生かしていること。
- 授業をビデオに記録し、実践を振り返っていること。
- 授業評価と授業研究会で得られた事柄を照らし合わせながら、振り返りをしていること。

生徒による授業評価だけでは気付かなかった授業の課題も、ビデオや授業研究会の話し合いを通して気付くことができましたね。

ビデオに授業を記録し、そのビデオを見ながらの授業研究会は、子どもを自習にしたままの授業参観を必ずしも必要としないので、大変効率的な授業研究会の方法の一つです。



事例 9

ワークショップ型授業研究会

【小学校】低・中・高学年のブロックごとに指導案を検討し、校内で互いに授業を公開し合います。その後の授業研究会では、参観者が授業の中で見取った児童の反応や行動(事実)について伝え合い、なぜ、そのような事実が生じたのかを話し合います。複数の参観者が見取った児童の様子を伝え合うことにより、授業者自身が授業をじっくり振り返り、改善点に気付くことができる授業研究会を目指しています。

1 ワークショップ型授業研究会

(1) 授業参観の仕方

授業は、授業者の投げかけに対する児童の反応、表情、つぶやきなど、児童の反応に対する授業者の対応を中心に見取るようにします。

【授業を観る視点の例】

- ・子どもの表情が明るくなった。
- ・子どもたちの話し合い活動が活発になった。
- ・話に広がり生まれた。
- ・子どもの理解を助けた。
- ・活気付いた。
- ・一生懸命考えている。
- ・教師が期待している答えと異なる思考をしていた。
- ・ とつぶやいていた。
- ・ 停滞した。

時刻を記入すると、後で時系列に並べる際に便利です。

9:35

「間違えはないんだよ。」という先生の言葉に、Aさんは、にっこり笑って挙手をした。

10:05

Bさんの発言の後に、先生が「他に？」と聞いたのはどうしてですか？

授業中に起きた事実に関して、場面ごとに時間と児童の姿や疑問点等を、付箋紙に簡潔に記入します。



この小学校では、青の付箋紙に学びが成立している点や参考となる点を、ピンクの付箋紙に気になる点や授業者に尋ねたいこと、教えてほしいことなどを記入しました。

(2) 「フリーカード法」によるワークショップ

付箋紙に書いた授業中の児童の反応や事実、事実に対する教師の対応や教師の対応への疑問などを、時間系列と教師・子どもなどの内容系列に区分した模造紙に貼付していき、同じカテゴリーに分類する過程で参加者同士が意見交換を行います。この作業を通して、各自が書いたカードと他のカードとの比較や、同じ内容系列であっても意見を交換することによって、授業の見え方が違ってくることに気付きます。授業の多様な見方に触れることがねらいです。このようなワークショップの活動を通して、参加者相互のコミュニケーションが、自然と研究討議の活性化につながっていきます。

(3) 授業リフレクション

教師の一言(働きかけ)によって、子どもの表情が変わる場面が、1時間のうちに必ず何度か現れます。授業リフレクションでは、それが、どのような一言だったのか、どのような働きかけであったのかを検討していきます。

自己リフレクション

最初に、授業者が自分自身の授業について、次のような項目についてプロンプター¹⁾に説明していく自己リフレクションを行います。

- ・ 授業を実施するにあたっての思いや願い
- ・ 授業中、児童の反応に戸惑った点、驚いた点、困った点 など
- ・ 児童の反応によって予定を変更した点
- ・ 参観者に聞いてみたいこと

授業者の意図を参加者全員が理解しておくことが大切です。



グループリフレクション

参観者は、学びが成立している点、参考となる点を記述した付箋紙を、模造紙に時系列に貼りながら、児童のよさを授業者に伝えます。また、授業を参観して気になった点、授業者に尋ねたいこと、教えてほしいことを模造紙に貼りながら、授業者の対応への意図などを質問していきます。このように、参観者は、肯定的な発言によって授業者の内面を引き出すように心がけることが大切です。プロンプターは、付箋紙が集中している点を中心に、話題を焦点化して話し合い、授業者が振り返れるようにします。その際、授業の様子をVTRに撮影しておく、授業研究会で話題に上った事実を確認しながら、授業の振り返りができます。

ワンポイントアドバイス！

◇ プロンプター(メンター)の役割と進行する上での留意点

リフレクションの手法を生かした授業研究会では、子どもの「学びの姿」を見取る教師の意思決定と思考過程について、プロンプターが質問をしながら検証していきます。プロンプターは、その授業分析の背景にある要素や環境などの情報を聞き出し、授業者と同じ環境や意識になるように努めます。質問される人は、自身を責められているように感じてしまいがちなので、プロンプターの最初の一言は、良かった点を指摘し、そのときに教師は何を考えて言葉かけや投げかけをしたのかを尋ねてみると、話しやすい雰囲気がつくれます。



研究会の振り返り



今回の授業研究会では、授業研究会の最後に、授業者が授業及び討議を通して、気付いたこと、学んだこと、今後に生かしたいことについて述べました。参観者も授業の参観や討議に参加して、学んだこと、気付いたこと、自分の授業に生かしたいことについて述べ合いました。

1)プロンプター：授業リフレクションの場での「聞き役」として、授業者の振り返りを支援する役割を担う人。

他ブロックとの情報交換

ブロックごとの授業研究会終了後、全体会で、それぞれの話し合いの結果を発表し合い、情報交換を図りました。付箋紙を貼ったりフレクションシート(模造紙)は、しばらくの間職員室に掲示しておきました。



2 授業リフレクションの手法を用いた授業研究会

授業リフレクションの手法を用いて実施された、道徳の授業研究会の様子の一部を紹介します。

主題 本当の友達(2の(3)理解・信頼・助け合い)

資料名「ともだち」(出典 小学館「教育技術MOOK」より、一部改作)

〔資料のあらすじ〕

ぼくとマナブとヒデトシは、「カミナリ爺さん」と呼ばれる人の庭に無断で入って虫取りをしていた。カミナリ爺さんに見つかって、三人は逃げようとしたが、ヒデトシだけが捕まってしまった。逃げる事ができた二人は、ヒデトシのことが気になり、カミナリ爺さんの屋敷に戻る。

プロンプター(P)・参観者(A~F)の発言	授業者(T)の発言
<p>P:最初に今日の授業を行うにあたって、こうしてみたかったとか、このような学びを子どもたちにさせたかったというような、授業への先生の「思い」や「願い」についてお話しください。</p> <p>P:授業を振り返って、授業の中で起きた先生自身の「迷い」や「不安」、「驚き」などはありましたか。</p> <p>P:授業を参観して参考となったことや、児童の様子でぜひ授業者の先生にお伝えしたいこと等がありましたら、付箋紙を貼りながらお話しください。</p> <p>A:導入で目をつぶって友達の顔を浮かべさせましたが、さんなどは、目を開けたときにさんと目を合わせていました。他の児童も落ち着いた雰囲気になりました。</p> <p>B:朗読が効果的で、さんなどは、集中して資料に浸っていましたね。</p> <p>P:今日の授業で子どもがとてものがんばっていたところや場面など気付いたことがありましたら、授業者の先生にぜひ教えてあげてください。</p>	<p>T:友達を思いやる心情を育てたいと考えました。</p> <p>T:第1発問をした際に、Yさんが、第2発問に対する答えを発表したので、驚いて、「それは、次の場面だよ」と言ってしまいました。この言葉でみんなが萎縮し、意見が出なくなってしまったのだと思います。</p>
<p>P:授業を参観されて、気になったことやぜひ授業者に聞いてみたいことがありましたらお話しください。</p> <p>D:先生が何人かを意図的に指名なさって、答えが返ってこない場面で、何度か「まとまらない?」と言われましたが、どんな気持ちで言っていたのですか。</p> <p>D:「まとまらない?」と聞かれた子どもは、いい意見を言わなくちゃいけないと思って、言えなくなってしまったのかなと思います。ちゃんは、何度も何度も資料を読み直し、考えていましたよ。</p>	<p>D先生が「まとまらない?」と授業者が言ったときの気持ちを聞きだすことで、授業者の振り返りを促しています。</p> <p>T:普段発言する子が発言せず、さんははずではないと思い、あせってしまいました。</p> <p>T:あせりから、知らず知らずのうちに子どもたちに答えを誘導するように仕向けていたのかもしれないね。</p>

P: Yさんを見ていたのですが、「ヒデトシ」が二人に言ったことばを書く場面で、「ヒデトシ、おいてきて、ごめんね、むかえに行くのがおそくてごめんね。」と逃げた二人の気持ちを書き、満足そうな表情をしていました。隣のMさんに「ヒデトシのことばを書くんだよ。」と教えられて、書き直しました。さらに、Uさんの発表を聞いて、「ありがとう、もどってきてくれて、いい友達がいてぼくは、幸せだよ。」と「ヒデトシ」の言葉に書き直しました。

C: 私もYさんを見ていました。最初にYさん発言したとき、先生が板書しなかったのが、そわそわした感じになりましたが、第2発問で、彼の意見を板書してくれたので、うれしそうでした。
「ヒデトシ」の言葉を発表する場面で、隣のMさんのワークシートを見て、いい意見だと思ったらしく、Mさんの手を持って手を挙げさせようとしていました。

E: 相手がMさんだからうまくいくのですよ。他の子だったら、もめてしまうでしょう。

P: ところで、Yさんは、第1発問で「あんなこと、しなければよかった。」と言っていました。が、「あんなこと」とは、どんなことを言っていたのだと思いますか？

B: それは、よその庭に入って虫取りをしたことでしょう。



P: すばらしい気付きがありましたね。

P: この討議を通して皆さんが学んだことをお話してください。

D: 付箋紙を使うと、どの場面の意見が多いかが分かり、討議しやすくなります。

F: これまでの自分の授業に対しても、子どもの発言の扱い方についてなど、反省点が見つかりました。

授業中に見取れなかったYさんの活動を教えてもらい、Yさんの行為について、新たな気付きがありました。

Yさんのワークシートを見る

T: そうだったのですか。授業直後にワークシートを見て、Yさんは何度も書き直したなど思ったのですよ。

プロンプターの問い掛けに対して、参観者の気付きを発表しあうことで、授業者はYさんに対する普段からの思い込みが授業を沈滞させてしまったことに気付きました。

T: Yさんは、普段から場にそぐわないことを言ったりしたりしてしまうのです。

T: それじゃあ、Yさんの発言は、第2発問のことではなかったんだわ。第1発問の場面でよかったのですね。私は、「あんなこと」とは、「ヒデトシ」一人を置いて逃げたことだと思っていました。あの場面で、Yさんの発言に「あんなことって、どんなこと？」と切り返して聞いて、取り上げていればよかったのですね。

T: Yさんに対する先入観のようなものがあり、彼の意見を受け止められなかったのが、他の子たちも発言しにくくなってしまったのですね。

T: 思い込みで判断せず、その子の思いや考えをよく聞くことが大切だと思いました。

(1) 授業研究会の気付きを生かした授業改善

授業者は、Yさんの発言の取り上げ方を誤ってしまったことを反省し、翌日Yさんに声をかけました。「Yさんは、昨日の道徳の時間で、逃げてしまったぼくとマナブの気持ちになって、よく考えていたんだね。見に来てくれた先生方も褒めていましたよ。」それを聞いた、Yさんはにっこり笑いました。

また、その後の授業では、児童の発言を共感的に聞くこと、児童の発言に対して必

要に応じて、「どうしてそう思ったのかな?」「あんなこととは、どんなこと?」など、さらに詳しく聞く問いかけや、気持ちを引き出す問いかけをすることを心がけ、授業を改善していきました。

(2) 授業研究会の成果と課題

後日、授業研究会に参加した先生方からは、次のような感想があげられました。

- ・ 指導法についての授業研究会になると、他学年ブロックのことにあまり口を出せないという遠慮がありましたが、児童の動きに視点をあてて参観し、話し合うことで学年ブロックの枠を越えて話し合いができました。
- ・ 先生の指導技術については話題にしにくいですが、児童を話題にすることで話がはずみました。
- ・ 先日の授業研究会のあと、自分の授業でも一人一人の表情、つぶやき、動きなどに、意識して目を向けるようになりました。

普段、見逃しがちな児童の細かい反応が具体的に、しかも時間ごとに記録として残るので活動ごとの児童の様子がよく分かりました。自分の授業も客観的に見ることができました。

子どもの姿をじっくり見ていたら、子どものつぶやきや発言の内面にある気持ちが分かったような気がします。授業をしていると夢中で気付かないのですね。

研究授業をするのは、気が重かったのですが、自分では見取れなかった子どものよさを先生方に教えていただけたので、授業を公開してよかったと思います。

2色の付箋紙を使い分け、要点をまとめて書くことには慣れが必要だと感じました。



ブロックで熱心に指導案検討をして授業を公開していますが、もう少し気楽に授業を見せ合って、授業リフレクションができればよいと思います。

この事例から学ぶこと!

- 付箋紙を利用した授業参観シート等の活用を工夫したこと。
- 授業研究会が、指導技術に目を向けた助言ではなく、複数の参観者が見取った児童の様子を伝え合う研究会であったこと。
- 授業研究会は、ブロックごとの比較的少人数【この学校の場合、学年ブロックの担任+管理職1名+無担任(教務主任や養護教諭等)】にして、話しやすい場を設定したこと。
- 授業参観者の多様な意見を出し合い、お互いを発見する機会としていること。

授業研究会では、授業についての多様な見方や考え方を具体的な事実を通して知り合わせ、共有し合うことが重要なことです。授業中に起こる事実を通して、授業者の成長を支援する場であり、その事実をめぐる話し合いを通して、参加者の成長を促進する場でありたいものです。授業のうまさを論ずる研修ではなく、教員同士が学び合い、育ち合う場となり、そこから学んで、自分自身を変えていくことを研修の目的にしましょう。

